



ジオパーク通信

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会だより

第14号
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
(洞爺湖町役場ジオパーク推進課内)
☎ (0142) 74-3015

ジオパーク通信では、これから各回にわけて、それぞれの町のジオサイト(ジオパークのみどころ)についてご紹介します。

私たちが暮らす洞爺湖有珠山地域には、有珠山や昭和新山のほか、大地(ジオ)の成り立ちを物語る風景がたくさんあります。見なれた風景も、物語を知るとぐーんと面白くなるよ! ジオの物語を探して、探検に出発!



壮瞥滝(そうべつだき)

洞爺湖には、ソウベツ川をはじめ、いくつかの川から水が流れ込んでいますが、自然の流出口はこの壮瞥滝のみ。水は約18mの高さから流れ落ち、やがて長流川と合流します。滝のまわりの岩石は、約90万年前と約160万年前の高温の火砕流堆積物が固くしまってできた溶結凝灰岩。散策路が整備されているので、歩いていくことができます。

弁景川・弁景温泉(べんけいがわ・べんけいおんせん)

かつて北海道最大の硫黄鉱山が壮瞥町黄溪にあり、多くの方が働いていました。大正時代末期から閉山する1973年まで酸性の鉱山廃水が弁景川に流れていたなごりで、現在も川床が赤くなっています。また、その水が発電用の取水トンネルを通じて洞爺湖にも流入し、洞爺湖に生息する魚類の多くがいなくなりました。そのため1972年に酸性水の中和処理がはじまり、現在は湖水の生態系が回復しつつあります。



ドンコロ山

このあたりはドロノキが多く、マッチの軸木にするために切り出して、斜面を転がし運んだことから「ドンコロ山」と名付けられたようです。約2万年まえに有珠山ができたところに形成された側火山(そくかざん)で、壮瞥町の町道昭和新山第2線は、ドンコロ山の火口の中を通っています。新山沼展望公園では、ドンコロ山と有珠山の噴出物の地層が保存されています。